

「自分」とは誰なのか

私たちは、限られた時空の中に自己を忘却して生きています。宇宙を構成しているエレメントには、地水火風の4元素と、4つに分割する前の空（第5元素）があります。また、宇宙を支配している法則を徴表した「生命の樹」のイエンドは、エーテル体を意味しています。このイエンドを第5元素とすると、肉体に対応するマルクトに4つのエレメントが存在し、時空（永遠無限の特性）はマルクトで生じるのです（表参照）。

人体は、エーテル体という肉体の形をした磁気的な層で覆われています。見えない磁力が金属粉を引き寄せるように、その層が物質を引き寄せているのです。1つのエーテル体は、4元素それぞれの特有な体験を通して作られるため、人は4つの前世をもっています。

プラトン立体の1つである正四面体を星形に組み合わせたものを、マカバと呼びます（図参照）。このマカバは、身体外側のエネルギーフィールドで、活性化することによってその場において同調し異なる場所のホログラフィーの中に入ることが可能であるため、空飛ぶ魔法の絨毯ともいえるものです。光には見ること自体を意味する主観的な光（始源の光、存在によって吸収さ

## ☆ 覚醒エッセイ 形而上的教えから 悟り意識を探る



文◎松瀬 観翁  
Kanou Matsuse

1985年、金沢医科大学卒業。松瀬医院院長。2015年より自戒の意味を含め、医院のホームページ「クリニック便り」の「恩寵の扉」に、長年書きためていた参考文献の要約文を掲載中。思考機能不全症候群からの出口を模索し、心の健康相談や人生相談に「気づき」として応用している。  
<http://www.matsuse-iin.com>

れる光、ルナライト、エーテル光」と、見られているところの客観的な光（終焉の光、存在により反射される光、ジオライト、物質光）があります。

本来、光とは観察の対象ではなく主体（見ること）です。あらゆる対象に気づいている空間意識（源）であり、私たち自身です。マカバにみられる双対の相互反転性は、そのまま自己と他者の関係を表わしています。主観的な光は、正四面体と共鳴して事物の生成空間である虚空に及

んでいますが（右側の図参照）、客観的な光は正四面体の形成を阻止する軸の反転があります（左側の図参照）。この反転が意味するものとは何か。1人称ではなく、思考を通して3人称で見ているために、他者から見ている世界を「自己が見ている世界」だと思いついて見ているのです。他者によって見られている空間の中に、自分自身の意識が沈み込んでいくのです。沈み込んだ意識は、思考に捕らわれ時空の中に孤独な自分を

表 チャクラとの対応関連表

	チャクラ	生命の樹	天体	タットワ	シンボル	エレメント	意味など
↑ 上位	サハスラーラ	ケテル(王冠)	海王星	(ニルヴァーナ)	蓮華	—	目的意志 上位の次元と接続
	アジーナ	コクマー(知恵) ビナー(理解)	天王星 土星	(ナナス)	翼状	—	(能動)見る シヴァ 第3の目
	ヴァिशヌダ	ケセド(慈悲) ケブラー(峻厳)	木星 火星	アカシャ	紺の楕円 卵形	空 (第5元素)	全体的に見る 虚空蔵 時空を超越
	アナハタ	ティファレト(美)	太陽	ヴァーユ	青の円 六芒星	風	統合の印 アストラル体
	マニブラ	ネツァク(勝利) ホド(栄光)	金星 水星	テジャス	下向きの 赤の三角	火	行動力と実行力 太陽神経叢 念力
	スヴァディシュターナ	イエンド(基礎)	月	アパス	上の欠けた 銀の三日月	水 (川・池)	(受動)見られる エーテル体 お餅
↓ 下位	ムラダーラ	マルクト(王国)	地球	プリティヴィ	黄色の四角	地 (土)	ルートチャクラ クンダリーニー 肉体

作ります。しかし、見ることでそのものの中に自分自身の位置を発見できるのであれば、「見るものとは見られるものである」という主客未分（主体と客体とは分かれていないこと）に気づくことができます。

### 分身を拾い集める方法

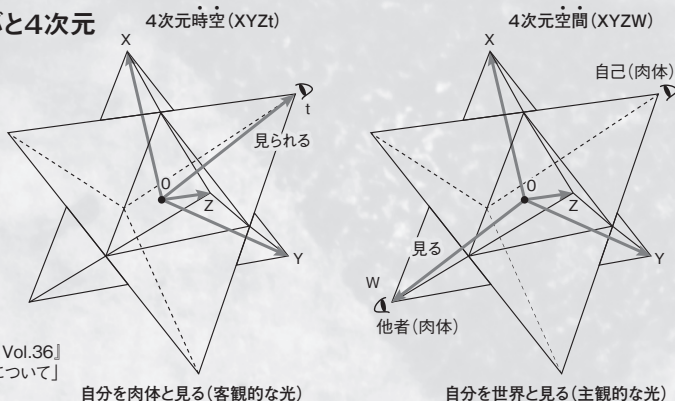
タマシズメとタマフリという鎮魂法をご存じでしょうか。先ほど説明したエーテル体こそが、霊的な鑄型

※1 創造：「覚醒エッセイ・第1回 各水素の概要と創造の連鎖」『StarPeople Vol.59』参照。

※2 遠華鏡：テレドスコップ (teleidoscope)。望遠鏡 (テレスコープ) と万華鏡 (カレイドスコープ) を合体させたような物。



図 マカバと4次元



出典：  
『Star People Vol.36』  
「魂の分光学について」  
より一部改変。

となる身体です。肉体の中に閉じ込められた魂は、そのままでは振ることができません。エーテル体という分身を一度外に出し、勾玉などに沈めて外界で振り、また肉体に戻す必要があるので。精神や心はエーテル体まで降りてきますが、肉体にまでは伝わりません。肉体(脳)が思考や感情を生み出すではありません。前世記憶はエーテル体が拾い、精神と連動するだけが記録されます。表の低位にあるもの(マルク

第3回

## 深刻さからの脱却

物質的現実とは、プロジェクション・マッピングである。外界の現実投影されるものを変えるには、自分の意識を変えなくてはならない。医師でノンデュアリティも研究している松瀬氏に、意識変革をするための思考のプロセスについてご寄稿いただいた。

ト)は、自力では上昇できません。すべてを揃えて待てば、上位にあるもの(イソエド)が下降して自己分割することで自身を引き上げられます。創造は下に降り意識は上がります。この鎮魂法は、鉱物の高自我と人間の低自我が同じ振動密度H96で共鳴することを利用したものです。潜在においては時間と空間は統合された相として存在し、潜在と現象は重なっています。潜在のエネルギーが潜在過渡の(見えないが心で感じる)領域に、現れたのがカミ(人格神ではない)です。形のあるものは形がないものの分身です。自己分割された部分が足りないものを集めるために全体へと回帰する動きが、時間の流れです。エーテル体は月や餅で象徴されますが、生命力をチャージするためには、餅は苦労してつかなくてはなりません。日常生活の中であらゆる行為に対してむだな労力はないと考え、喜びの種を育て続けることが外界に漏れ出た分身を拾い集める方法です。

「どうすればエゴは取り除けるのか」とこの連載で問い続けてきましたが、エゴは捨てなくてはいけないと思うこと自体が1つのエゴです。私たちとは開かれた気づきであり、気づきの中で現れては消えていく心象を眺めているのです。中を覗いているのに外の景色が見える遠華鏡のようです。向こうには形や色のある世界が、こちらには境界のないクリア(透明で明晰)な気づきがあります。カミに善悪や正誤の判断はありません。改善すべきものなど何もなく、受容があるだけです。対立のない状態こそが平安です。「あきらめ」、そこにはまだ抵抗があります。「身を任せる」とは、すべての抵抗と判断を手放すことです。観察している目(光)があるのだと認識するだけです。今という瞬間が差し出すあるがままの姿に、特別な意味づけはありません。「思考は意識しなければ存在できませんが、意識するのに思考は必要ない」のです。すでに自分である以上のものになることはできません。もう何かになろうとする努力はやめましょう。気づき(観察)とエゴ(ペインボディ)は共存できません。光に遍く照らされたものはすべて光となるからです。

◆参考文献  
『インテグラル・ヒブノ独習マニュアル』松村潔著/説話社  
『カタカムナへの道』関川二郎著/稲田芳弘編/POO・クリエイティブ  
『水晶透視ができる本 完全解説』松村潔著/説話社  
『ニュー・アース―意識が変わる世界が変わる』エックハルト・トール著/吉田利子訳/サンマーク出版  
『ホームには誰もいない』ヤン・ケルスシヨット著/村上りえこ訳/ナチュラルスピリット  
『StarPeople Vol.3436』「魂の分光学について」半田広宣著/ナチュラルスピリット